

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

経営の哲学、国家や資本主義とは何かを真剣に考える 松井道夫（松井証券顧問）

1. 半世紀も前の日本郵船の新入社員歓迎会で、当時社長だった菊地庄次郎さんの訓示を聞きました。「会社のために働くな。自分のために働け。自分を磨け。それが結果として会社のためになる。郵船は学校だと思え。そして常に哲学せよ」。10年ほどで日本郵船を辞め、松井証券に入って社長を四半世紀ほど経験してようやく、その意味が分かったように思います。
2. 経済同友会に入ったばかりの1990年代半ば、日本興業銀行の頭取経験者が「松井くん、日本企業はこれから駄目になりますよ」と言われた。経営陣が官僚化し、責任を回避するような仕組みをつくり上げるのだと。それから25年が経過し、その方が言った通りになっています。
3. 私は今年の6月で松井証券の社長を退き、顧問に就きました。社長に加えて代表取締役会長のようなポジションがあっては、責任の所在があいまいになり、ガバナンスが利きません。経営者は数字がすべてですが、以前の経営者は経営の哲学や国家とは何か、資本主義とは何かといったことを真剣に考え、議論していたように思います。売上やコストなどの数字ばかり見て責任の回避を図る、部長の延長線上にあるような社長では務まりません。

(参考:「日経ビジネス」2020年8月31日号)

経営者のための理念・哲学

貞観政要を腹中の書とした家康

田口 佳史（東洋思想研究家）

1. 徳川家康はどうして15代も続いたのか。ご存じの通り、家康は「貞観政要」という人生のバイブルを持っていた。従って、古典を腹中の書として人生に生かすかどうか、一代で終わるか15代続くかの差になることがよく分かります。
2. 渋沢栄一から学ぶべきなのは、いま盛んに言われている人生百年時代の生き方をあの時代に既に体現していることです。10歳から20歳までは基礎づくり、20歳から60歳までの40年は予備の人生にすぎない。60歳から本番の人生で、渋沢栄一は60歳から何をやったか。困窮者や障害者の救済。彼は91歳までそれをやったのです。まさに人生百年時代の範を示してくれたのです。

(参考:「致知」:2020年11月号)

経営者のための経済学

本当の危機はこれからやって来る（7割経済）

1. 日本企業は二つの「厳しい現実」に向き合わねばならない。一つ目は、当分の間、コロナ前の経済状態には戻らないということだ。コロナ以降は、多くの産業において「7割経済＝超縮小経済」になるといわれる。例えば、2020年の世界自動車市場は「2割減」となる見通しだし、リアル店舗を主体とする外食や小売のようなB to C（消費者向け）ビジネスはさらに落ち込みが激しい。
2. 二つ目は、テクノロジーの革新的進化や米中対立など、地政学リスクの高まりにより、社会や業界のトレンドが激変するという現実だ。全業種でデジタルトランスフォーメーション（DX）が加速していることから、既存ビジネスの激変は避けられない。しかし、である。本当の危機がやって来るのは、これからだ。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2020年8月29日号)

古典に学ぶ

道徳律の樹立（世界列強国）

（解説）一般青年の間に人格の修養ということはほとんど閉却されておるかの感なきを得ないが、これは実に憂うべきことなり。世界列強国がいずれも宗教を有して道徳律の樹立されておるのに比し、独り我が国のみがこのありさまでは、大国民として甚だ恥ずかしい次第ではないか。

(参考:渋沢栄一「論語と算盤」:国書刊行会)